

俳句帖  
坤

特別  
A5  
6582  
2



6582  
2

8

< 98 - 138 >

夕柳の

ひらひら

芥子



ほろり

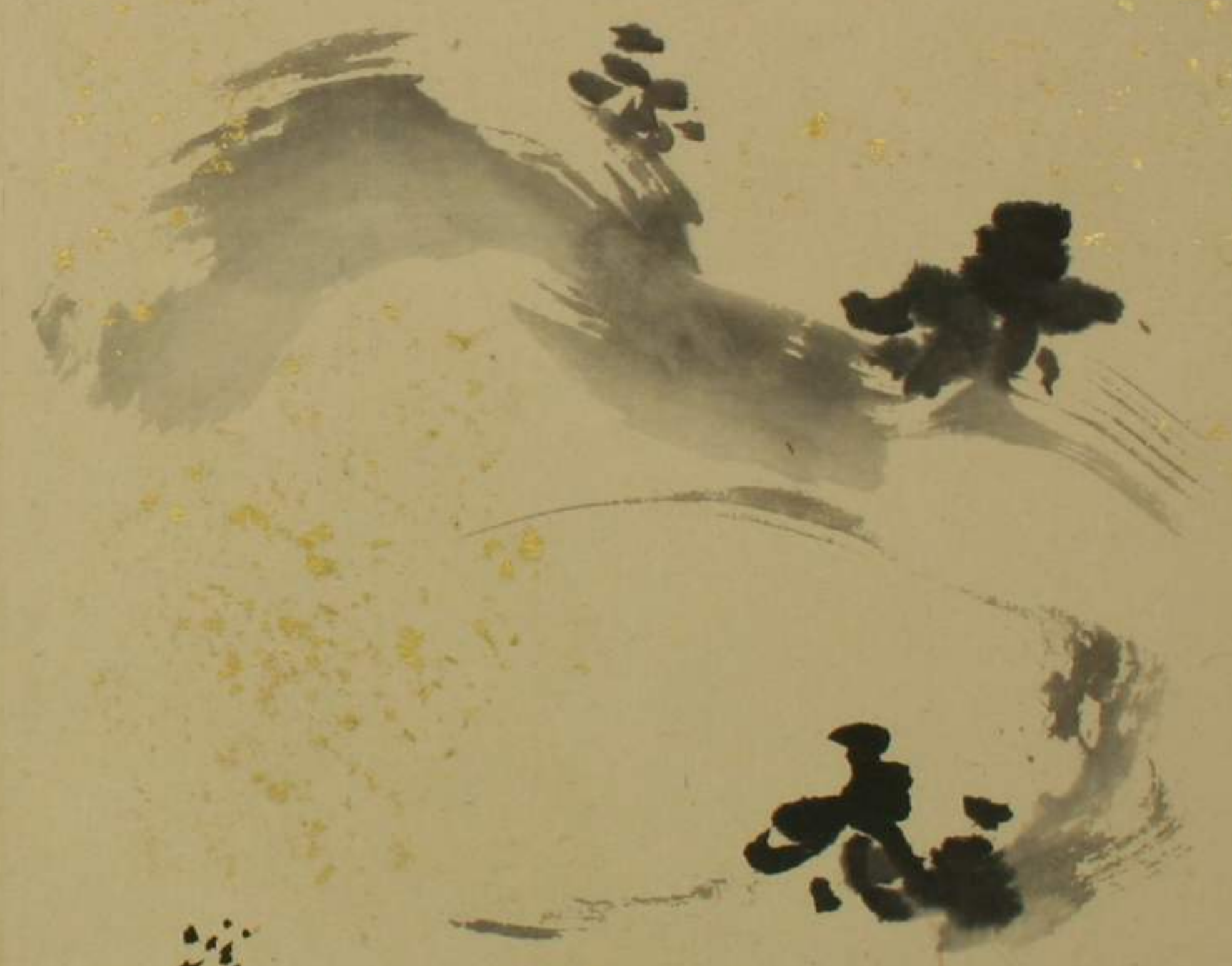
松通



つらね

梅

秋の  
あけ  
し  
の  
鏡



秋  
の  
鏡  
の  
あけ

名月や

あけ  
の  
山

あ  
の  
大



咀の梅満枝

南ふうきくくく

見

外  


梅の影の冬

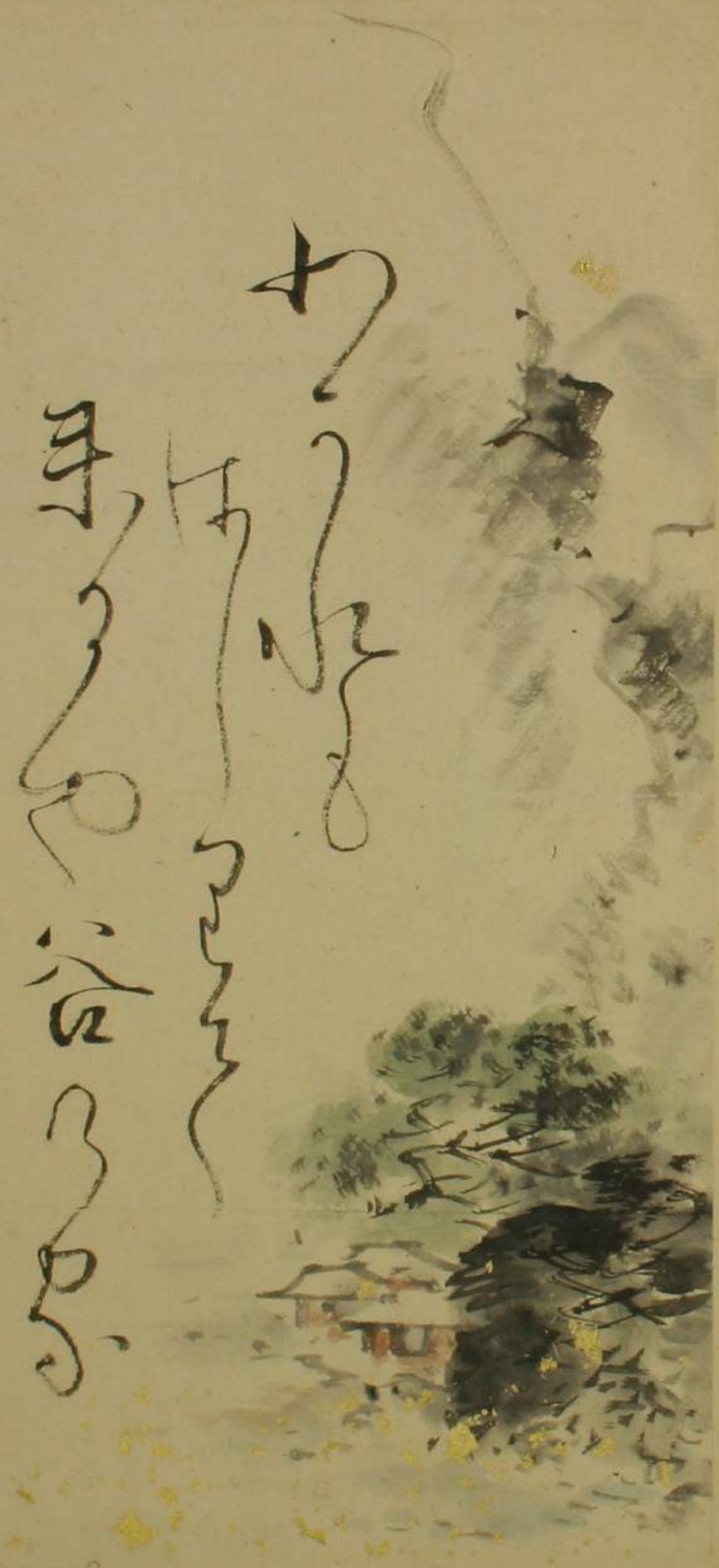
美如好き月


冬



春の山けしき  
はむら 松尾好

松尾好  

春の山けしき  
はむら 松尾好  
松尾好  


道角の清心

法久夏野

可也

高謙次



多たし  


極之の極

祇白



何事

目

一

と

女  
56  


何事

何事

桐十  




懷之

十月十日

枯萍

長  
呈子純

十月



市巾之日

之

其

新



丁未

二月三日

二月三日

敬

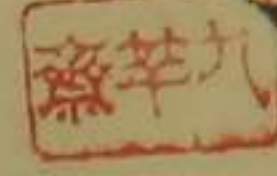


中  
の  
片  
尾

清  
の  
片  
尾

丁未

敬



世久年花  
耐心河  
枝波

西風亭外



梅人

山

初

辛丑

秋



ふらふらと  
ふらふらと  
ふらふらと

ふらふらと

ふらふらと

ふらふらと



ふらふらと

ふらふらと

ふらふらと

ふらふらと

ふらふらと



甲子

既

如舊日無事也

深心



君田試習

之

一

日乃

名園



之

了免此也

人海に遊ぶは  
遊ぶは遊ぶは  
遊ぶは遊ぶは



人海に遊ぶは

遊ぶは遊ぶは



皇朝の文苑

以て後世に傳へ

拙誠



了る

人

社

樹



世に  
借  
たれは

あつた

たつたあつたあつた



物のつと

いふこと

あつた

あつた





春の山

の

山

の

山



春の山

の

山





秋、多やけり

物、の、瀬の、さ、ん

七十三歳

有馬



花、の、心、し、ら、ぬ

山、の、心、し、ら、ぬ

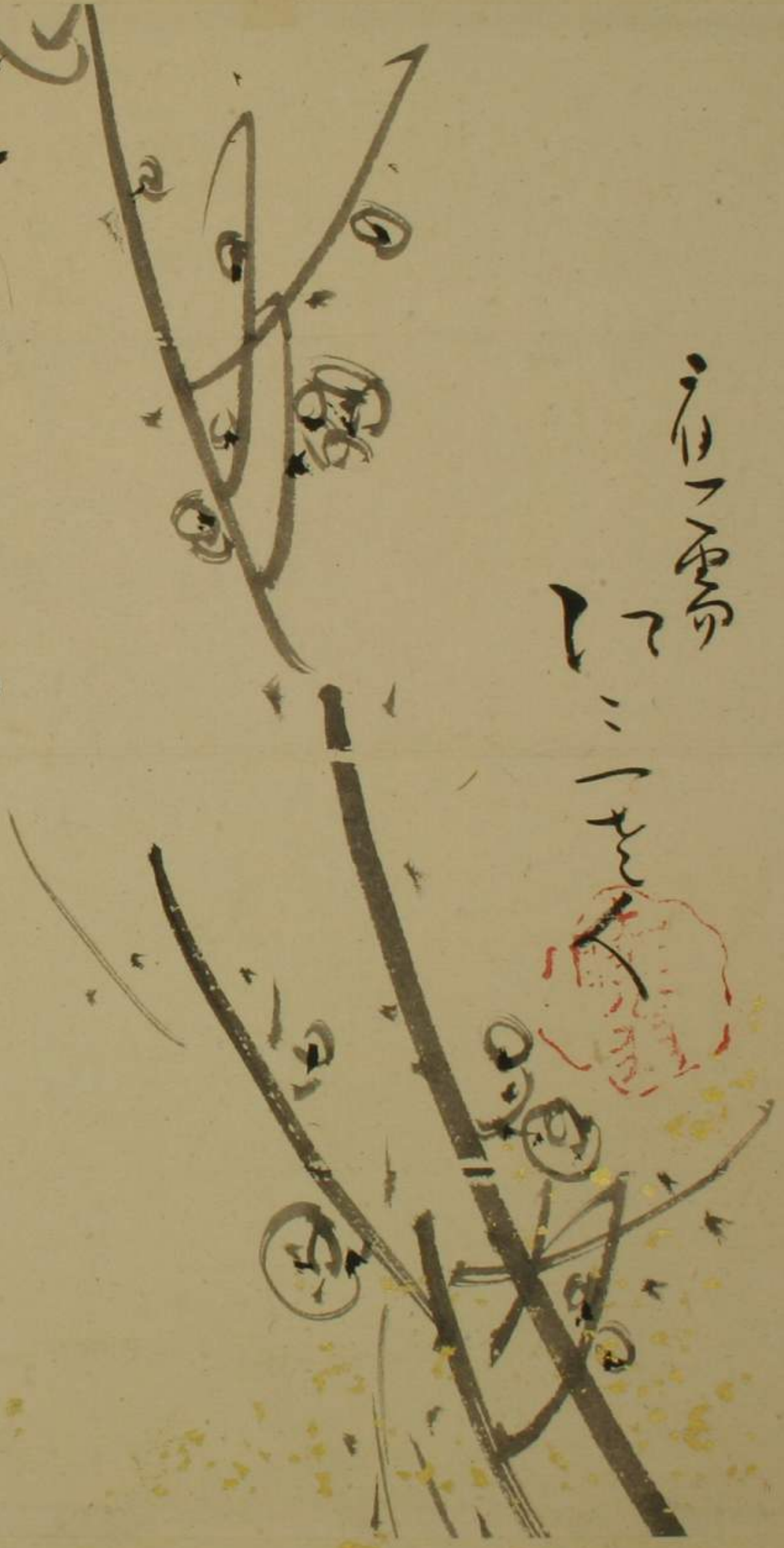
大、つ、ね、の、心、し、ら、ぬ

野、岳



心づき

いづれ



たふさふさ  
のささ  
ささ

新しき花のまは

月やさ乃上

六十八番

龍村新英



後河原

ふきのたけ

ふきのたけ

桑陽



ふきのたけ

ふきのたけ

ふきのたけ





版  
葺  
石  
川

新  
田  
子

身  
と  
す

漢  
淵



古  
稀  
文

子  
心  
に  
あり

古  
稀



場  
と  
勢

流  
石  
と  
子

鳴月の聲

うき

君を

長年



鳴如日冬

中津乃

長年



此中乃本心  
たにこよ

たれ

心平

年  


今  
心  
心  
心

心  
心  
心

心  
心  
心

心  


みへきつらげのつらさこそよの  
ほろろしちれちる海くは  
えんえんとして


いねの濃紙すみに見し  
なれや

ふきのたね

松陸  


浪際のそと

あつた  
うきとよ  
うきとよ

夢  
あ  




あやうきを

あやうきを

白起



あやうきを  
あやうきを  
あやうきを

あやうきを

あやうきを

あやうきを

あやうきを



とく

精

子千

竹の皮

七千

印



とく

和

朝

和



毛筆の布

今更なる

清水珠

印

多仙中

印

毛筆の布

今更なる

今かゝぬ書も彼序を記す所は垣かの  
糸瓜の葉を踏ひく後く一花咲く  
類ふしと桃李はかむらんしし海ぬ  
たゞくく一 茲も筆を操くやむと  
とくくくくくくく 嘉永五年の夏白川  
の葉ふくくくく ゆくゆくゆく 秋田乃

月に影を成すは 彦日氏 吟風子も  
とくくくくく 以能 濁る 神宮を  
とくくくくく 河仁の山中も  
とくくくくく 日 朗く 山 麓を  
とくくくくく 仙 境も 妙なる  
あやしく 術くく 能代の 清流も

愛一仰々森吉の碧緑を歎ふ  
窓前北窓都對りて左  
右の田畠濶々として  
平坦なり此の地は  
くさくさ十餘の  
了し陸奥北越へ

去京一千五百里  
をくはるはる國界も  
風推の蒲三つ葉  
花の香の  
遠きふあはれ  
に想ふは

凌雲と杖のしるまぬ整いと  
あつふ抑可時流りしと今  
いふ均いゝを減志かつら  
風士の墨蹟をととえおつしと基  
とり莊白まのあつふとあつふと  
因ふ歌をを梓とあつふとあつふと

御のつこ是んまゝと七老集乃  
物と果あつふと好あつふとあつふと

蘇涯散人 漢系識





國うすたるあゝははらりねん  
ましは神のまゝははらりねん  
に今年沖林澄のまゝは  
うすたるあゝははらりねん  
度おとろのまゝははらり  
うすたるあゝははらり

うすたるあゝははらりねん  
ましは神のまゝははらりねん  
に今年沖林澄のまゝは  
うすたるあゝははらりねん  
度おとろのまゝははらり  
うすたるあゝははらり



水が如くは流るる神の如く  
能くは流るる子阿多白の物  
内浮の流るる南の如くは  
流るる阿多白の河に舟  
残るる氣を子阿多白は  
此の如くは神の如くは

此の如くは神の如くは  
流るる阿多白の河に舟  
残るる氣を子阿多白は  
此の如くは神の如くは

とつらつらとあつた人の後  
名にふたはしりしとて老  
阿清んといふあつた年といふ  
思はれおつたあつたといふ  
つらつらといふあつたあつた  
つらつらといふあつたあつた

つらつらといふあつたあつた  
つらつらといふあつたあつた  
つらつらといふあつたあつた  
つらつらといふあつたあつた  
つらつらといふあつたあつた  
つらつらといふあつたあつた  
つらつらといふあつたあつた

遠去こはるこ田は  
るらん後地まのぬお  
るののまき南らあ人  
いつり奥羽れ後ま字  
まらぬまのい後能中  
母をいさしこす松島

能多虫いさしり  
今字の年いれし  
いさしあまあま  
いさしあまあま  
いさしあまあま  
いさしあまあま  
いさしあまあま  
いさしあまあま  
いさしあまあま  
いさしあまあま



淳亨甫禮

枝立於

神具禮

戊子初九



